

Company Newsletter
Terrace HLDGS

2025.6

TERRACE TIMES



社員の推し活

ご鼎肩を愛でたり応援したりする
さまざまな形の推し活

解体今昔

桑原組が手掛けた建築物の
「今」と「昔」を巡る

ミナモアサイネージ

タランゲート広島の東面に
デジタルサイネージ登場

リベラテラス新料理長よりご挨拶

5月1日付、西原一樹シェフ就任

ベーカリーを支える人びと

THE STANDARD BAKERS スタッフのお仕事

イベントレポート

広報室より、奔走した日々のご報告

事業部コラム

テラスHD各事業部からの近況報告

多様な事業展開で、 生まれ育った街へ恩返しを

巻頭特集 ヒロマツホールディングス・松田哲也会長との対談

No. **02**

巻頭特集

ヒロマツホールディングス 松田哲也会長との対談

(聞き手 広報室)

@theTERRACE

ヒロマツホールディングス
会長

松田 哲也
(まつだ・てつや)

関西大法卒。1993年神戸マツダ
モーターズ(現・神戸マツダ)を経
て95年広島マツダ入社。05年社
長。23年ホールディングス会長。
56歳。広島市出身。

ヒロマツホールディングス(HD)は、中核会社の「広島マツダ」が全国のマツダディーラーの中で最も長い歴史を持ち、広島を拠点に、クルマを通じて地域とともに歩んできた企業です。近年ではその枠を超え、観光や飲食、デジタル事業、人材紹介など、地域のニーズに寄り添う形で新たなチャレンジを続けています。多様な事業の土台には、同社の松田哲也会長が軸となり、社員一人ひとりの挑戦心を大切に、オープンで自由な社風があります。今回の巻頭特集では、テラスホールディングス(HD)の桑原明夫社長との対談を通じて、各フィールドで挑戦を続ける二人に、経営に関する考えや街づくりへの思いを聞くことができました。

■ おりづるタワーが事業の分岐点に

「地域の有力会社へと変わっていく中で、社内外に大きなインパクトを与えた事業は何でしょうか。」



松田哲也会長(以下、松田) 2016年の「おりづるタワー」グラントオープンですね。私は02年ごろから、広島が少子高齢化の波にのみ込まれてしまふことは分かっていた。当時、車のディーラーは「夜討ち朝駆け」もあり、きつい仕事で人気がありませんでした。そこで多角化へシフトしました。自動車ディーラー業で地域一番店になるとの目標は持ち続け、新たな分野に業種を問わず挑戦しようと決めました。広島マツダは広島に育てられた企業なので、地域密着として何か恩返しをしたいと思ったタイミングで、おりづるタワーが建つ場所の古いビルに出会いました。タワー一階の物産館にある商品選定や陳列、カフェの設立からメニュー決め、社員教育に至るまで、自分たちでノウハウを積み上げました。それが分岐点となり、タワー完成の頃には車以外の新規事業が出来上がり、スタッフ全員に「自分たちはできる」「現状に満足せず、変えていくことが面白い」という社風が生まれたのです。おりづるタワーにはそういった側面があります。

■ 桑原明夫社長(以下、桑原) 新規事業を立ち上げるメリットは、社員に刺激を与えて成長を促す機会が提供できる点にあります。

私が社長に就任した09年当初、まず祖業に対する「解体屋」という呼ばれ方をいかに払拭するか、そしてリーマンショックの後いかに事業を立て直せるかという課題と向き合いました。単に「儲かるから」という理由で新規事業などに手を染める、といったことに興味はありません。もともと歩んできた事業を次の事業に展開することで、点と点がつながり、そ

多様な事業展開で、生まれ育った街へ恩返しを



れが線や面へと発展していくべきと考えました。

だからこそ、解体業者が物を作る領域に入ったインパクトは大きかったはず。グラントビル広島は「解体屋」が飲食業を始めた象徴的なものです。20年に着工のひろしまビルASSE(アッセ)の解体から駅周辺の再開発に携わり、地域活性化につながるものを生み出したかった。周囲からは「解体屋の分業で飲食を？」と言われながらも、会社にとっては一転機になりました。

■ 創業者への反骨心

「HDの中でも、核の一つとなる施設を作ることが必要だったのでしょうか。」

松田 私は松田家の中では「亜流」との自認があり、親族でも浮いた存在です。そこが自身のコンプレックスとなっていました。「松田家からの脱却」というのが人生の一つのテーマなのです。一方、もともと商売人の気質です。祖業だって果敢にチャレンジする

ことから始まったわけで、その気風で「何かやらなければ」という気持ちはありました。自動車に限らず、いろいろなチャレンジを重ねる中で、たまたまおりづるタワーのアイデアが芽生えただけです。そういうわけで「核となる施設」は後付けみたいなところはありますが、松田家への反骨心にはなっていますね。

■ 桑原家への反骨心はありましたか。

桑原 嫌いでしたね。桑原組には業界下請けの「ぶら下がり体質」が染みついていました。挑戦することに対し「やったことがない」と否定的。向上心も探求心も乏しい人ばかりで「だめだこれは」と社長就任前から感じていました。反骨心や脱却というよりも、構造的に改革しなければ会社が持たないという危機感が原点にあります。父は私が15歳の時に他界し、会社に戻る義理も義務もなかった。まさか社長に指名されるも思っていないませんでした。当時は、すでに30歳で起業した会社があったし、妻からも「組長」の嫁になるな



- 建築物解体工事
- 環境リスク対策 (土壌汚染、アスベスト対策)
- リサイクル処理



人と街の歴史を未来につなげる街づくり

Instagram



本社：広島市西区己斐本町3丁目17-24
お問い合わせ先：082-272-6006 (代表)

◎「別れる」とも言われましたね。桑原組は、戦後の焼け野原から駆け上がった人たちが創業しました。私の社長就任以降に経営再建し事業領域の拡大や人材育成を進め、いわば「第二創業」を行い、今に至っているのです。

松田 大学卒業後は神戸で就職しました。ところが、95年の阪神淡路大震災を機に帰国することに。震災の体験は人生観が変わるほどの衝撃を受けます。2カ月近く余震が続く中、インフラも整備されない環境で生きる意味を考えさせられました。この時に「広島に帰れ」と背中を押された気がします。当時、広島で私と結婚をしたがっている彼女が待っていて。本当は米国へも行きたかったし、神戸生活も楽しかった。まだまだ勉強も足りないという自覚もありました。でも流されて帰ってききましたね。振り返ると、よくない選択でした。その彼女とも帰省後たった一カ月でお別れしました(笑)。当時は「アッシー君」や「メッシー君」などが流行したバブル全盛期です。桑原社長も都内でいろいろと謳歌された時代です。送迎に使っていたのはマツダ「RX-7」でした。

■アトで未来への種まきを

―事業の多角化で既存事業とのシナジーが難しくなるのでは。

松田 もうカオスですよ(笑) シナジーについては最初から考えないようにしています。だって挑戦しにくいでしょう。私は、これまでの事業の枠にこだわらず、常識にとらわれない発想こそが、次の時代を切り拓く力になると考えます。「車屋だから」との枠からわざと外れようとしています。今関心があるのは街づくりです。広島に育てられた企業として、どれだけ未来に残せるものがあるか、そして私の思いを継いでくれる人がいるのか、いろいろ考えます。未来への種まきをして引退したいのです。24年11月オープンのギャラリー「ART BORN HIROSHIMA(アートボーンヒロシマ)」は、アンダーグラウンドのアートを盛り上げる風を起すため実現した

企画です。皆さんが会社帰りに花を買って部屋に飾ると生活が彩りますよね。それと同じで、ふらっとギャラリーに立ち寄り、絵を買うことでセンスを磨き深い人生が送れると思いませんか。今回は17人の無名アーティストを招聘してスタートし、「ギャラリーは自由に使って良い」と伝えました。今となっては私の予想を超えて昇華しており、芸術と一般を近づける「メツカ」を目指しています。いつかはフランスやイタリアの都市にあるようなアートな街が広島にも根付けば嬉しいです。

―広島市出身・50代の経営者として、広島という土地とどのような関係性を築いていきたいですか。

松田 あくまでも街づくりが好きで私個人としての意見ですが、産業人口が減少する中で、新たな開発のすべてが「にぎわい創出」ばかりでセンスを感じません。なぜ私に声を掛けてくれないのでしょうか。一方、新広島駅ビル「ミナモア」は素晴らしい、よくぞ作ってくれたと思います。一市民からすれば、かつての広島駅は「どうあがいても駄目な場所」だったのに、こんなにも素晴らしいものが完成して誇らしい。進出しなかったことを後悔しているほどです。周辺エリアも巻き込み、これからの市の中心となっていくでしょう。ただし、知名度があること、あぐらをかいては駄目。街が空洞



ギャラリー「ART BORN HIROSHIMA」の一部



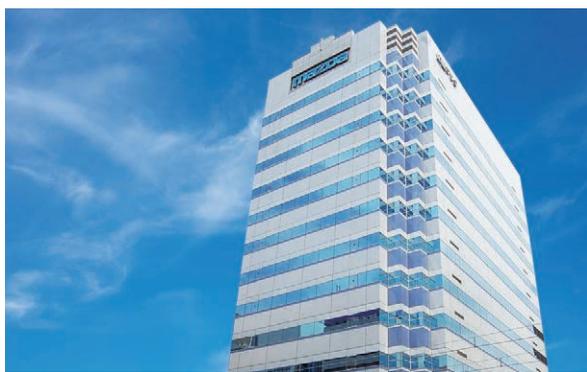
―経営者としての「終活」についての考えは。

松田 これは私の目下のテーマです。心配の種もあります。私だけが新しいことへチャレンジしたり、変化の波を起したりで、社内への浸透はまだだと受け止めています。元気なうちに引き継ぎ、早く世代交代して若手の活躍の場所をつくりたい。近いうちに、会長室を社外に設置し、あまり私の影響を及ぼさないように、でもヒロマツHDの魂は残しているような環境整備を進めたいと考えています。

桑原 後継者育成は簡単に進む問題ではなく、不安要素も非常に多いものです。後任を一日でも早く育てる必要があるし、私が社内にはない時間をつくることは大事です。社員からうつつとうしがられるのは嫌ですから。でも仕事ばかりで生きてきた分、手すきになるのも寂しいものです。社長秘書くらいは連れて出ようかなと思いますね(笑)

ヒロマツホールディングス 会社概要

自動車ディーラー「広島マツダ」を中核とした38社からなるグループ企業の持ち株会社。不動産・観光・飲食など多岐に渡る事業展開を行う。1988年1月設立(広島マツダの創業は33年1月)。グループ全体の従業員数は1188人(24年4月時点)。



住む人のくらしに合わせて変えられる
そんな住まいの提案をしています

広島の新築・リノベーション施工会社
■施工管理 株式会社桑原組
■新築住宅 無印良品の家 広島西店



お問い合わせはこちら



本社：広島市西区己斐本町3丁目17-24
お問い合わせ先：082-272-6006 (代表)

社員の 推し活

山本 清人
さん

(桑原組・常務執行役員)

スポーツ観戦は筋書きのないドラマのよう

野球、ゴルフ、ラグビー観戦の魅力は筋書きのないドラマ、全く予想していない結末を楽しめる点にあります。WBC、ラグビーワールドカップ、ゴルフも男女問わず大会を観ます。

ゴルフに関しては、社会人になり同僚の誘いで始めました。学生時にサークルへ所属しており道具は揃っていましたが。ベストスコアは92です。スポーツ観戦に競馬を含めても良いでしょうか。大学生の頃に、友人の誘いで初めて東京競馬場へ日本ダービーを観に行き勝利しました。雰囲気も重なって感動しました。推しはクリストフ・ルメール騎手。これまでの勝率は聞かないでください。でも、万馬券を当てたこともありますよ。

小学校3年生から始めた野球経験は、今の仕事にも生きています。私たちの時代は部活内での上下関係が明確で、根性論も相まって厳しく育ちました。その分、社会へ出た時に諦めたり、文句を言ったりすることがなかった。練習中に水を飲めなかったので、ずる賢さも同時に学べ、見えないところで休む技は必然と身に付きます。私はチームを盛り上げ、味方をフォローする役回りでした。こう見えて俊足でしたよ。

今振り返ると、個人スポーツの方が向いていたのかもと思います。良くも悪くもすべて自分で結果を受け入れられるからです。野球は楽しいけれども、結果に関しては自分一人だとうにもならないことがあります。誰にも迷惑をかけず、自分が納得できる方が合っていますね。部下を教育育てるという風土の中でキャリアを積んでいないため、どちらかといえば人を教育するのは上手ではないと思います。前職ではいろいろなタイプの上司と働きました。武闘派、仏様のような人、そして兄貴分の人。そこから「兄貴的な人」を目指したいと思い、自分で数字を稼いで引っ張っていかうと考えるようになりました。普段の仕事をする上では、大変なこともあります。その分同僚という時間は、出来るだけ楽しく仕事出来るように努めています。

野球の推し選手は大谷翔平選手です。ラグビーはチームプレーが光る競技で、私の地元・コベルコ神戸スティーラーズを応援しています。

もし自由に一日を使えるなら、朝から夕方まで体を動かしたいですね。その夜に焼肉を食べながら一杯やりたい。若いころのような一日を過ごすことが理想です。



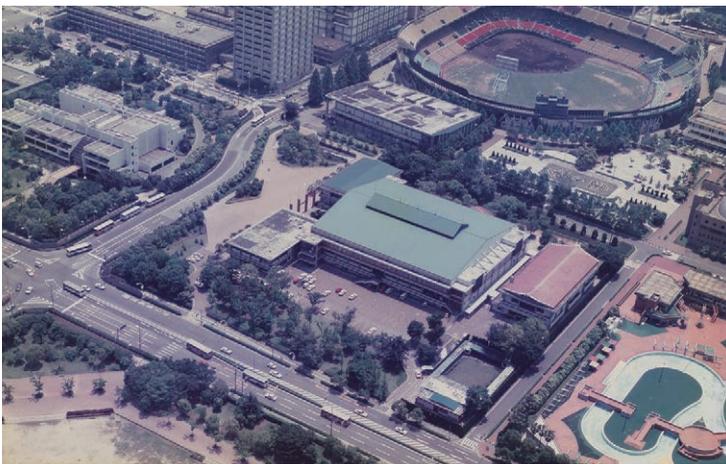
ゴルフコンペでの一打



昨年京都競馬場で
行われた天皇賞(春)

▶ 次回の推し活紹介コーナーは、住空間創造事業部 馬越 穂乃香さんにご担当いただきます。

解体今昔 ~広島グリーンアリーナ (広島県立総合体育館)~



広島グリーンアリーナは、1994年のアジア競技大会を機に開館した県立体育館で、広島市中区の中心部に位置します。同アリーナは、全国的なバスケットボールファンにとっても特別な存在です。というのも、90年代の名作漫画『スラムダンク』では、インターハイの開会式の会場となるシーンが描かれているからです。多くのファンが「スラムダンクの世界」を体感しに訪れました。

さらに、プロバスケットボールチーム「広島ドラゴンフライズ」が26年シーズンより本拠地として利用することも決定し、Bリーグの熱戦が繰り広げられる場所となります。

そんなグリーンアリーナの前身は、62年に開場した「広島県立体育館」。老朽化が進んでいた旧体育館は解体され、その工事を桑原組が担当しました。

また、グリーンアリーナは広島出身・ゆかりのアーティストのライブ会場としても親しまれています。たとえば、Perfumeやボルノグラフィティ、浜田省吾、矢沢永吉といった全国的に活躍するアーティストたちがこの会場で公演しています。彼らの地元公演を見ようと、全国からファンが殺到する場所としても知られており、大きなにぎわいを見せます。

ミナモアサイネージ紹介

2025年2月より、グランゲート広島の東面に横長のデジタルサイネージが設置されていることにお気づきでしょうか。常時、店舗内のイタリアンレストラン「LIBERATERACE」や、ベーカリー「THE STAND BAKERS」のおすすめメニューを紹介しています。

また、広島の陸の玄関口に店舗を構える当店では、「もっと広島の魅力発信したい」という思いから、観光スポットを紹介する映像の配信も始めました。たとえば、4月には桜をテーマに、世界遺産の島・宮島や平和公園、広島城の映像を広報室自ら撮影し、サイネージで紹介。5月には、しまなみ海道の景色や、世羅高原農場のチューリップの風景を配信しました。



3月24日に開業した新広島駅ビル「ミナモア」から広島JPビルディングへと向かうペDESTリアンデッキを渡ると、左前方にデジタルサイネージが目に入ります。観光で広島を訪れた方はもちろん、通勤・通学途中の地元の方が、広島の魅力を少しでも感じられるよう、今後も情報を発信していきます。ぜひ注目ください。

さらに、「ミナモア」1階のバス停前（ロッカー付近）には、グランゲート広島の屋外広告も掲出されています。施設の魅力とともに、思わずお腹が空いてしまう美味しそうなパンのビジュアルが印象的な広告です。お近くにお越しの際は、ぜひその流れで店舗にも足をお運びください。皆さまのご来店を心よりお待ちしております！

リベラテラス新料理長よりご挨拶

5月1日付でリベラテラス新料理長に就任した西原 一樹（にしはら・かずき）シェフが社報に登場です。新生・リベラテラスの店づくりや料理へのこだわりを聞きました。

地元愛を一皿に込めて



本稿は「中国新聞SELECT」コラム「想」に寄稿した文章を加筆修正したものです。下記二次元コードからデジタル版「想」一覧ページに移動します。



JR広島駅から歩いてたったの1分。都会の喧騒のすぐそばに、小さなイタリアがあります。県産食材をふんだんに使った一皿には、料理長である私の思いを込めています。

三原市で育ち、専門学校で料理の基礎を学びました。県内のイタリアンで修業した後の2024年3月より、イタリア・トスカナ州でも研さんを積みました。今年5月、大型フードホール「グランゲート広島」内イタリアン「リベラテラス」の料理長に就任。6月中旬のリニューアルオープンに向け、一から店づくりを任せられました。

リベラテラス自体は23年9月に運営を始め、フレンチイタリアンを掲げていました。私の着任以降、看板をイタリアンに変え、スタッフがイタリアへの興味関心を持てるよう工夫を凝らしています。記念日プレートもイタリア語に変更するなど、一緒に学べる雰囲気づくりが大切だと考えます。

リニューアルに際し利用客の新規獲得にも熱が入ります。新広島ビル内

の店舗とも競合しつつ、総合力で勝負するつもりです。私たちの強みは、やはり地産食材を生かしたイタリアン。メニューの「ブルスケッタ」に用いるレバーペーストは、皆さんが味わったことのあるものに比べ、レバーの風味をより強く感じるかも知れません。味の秘訣は、ペーストに赤タマネギをたっぷり使い、度数の高いワインを香りづけに加えることです。イタリア産赤ワインとの相性抜群です。私がイタリアのいわゆる居酒屋や大衆食堂で食べてきた味を参考にしました。

外食の際は、その土地の郷土料理を必ず注文します。印象的だったのは、ローマで食べたカルボナーラ。調理法や麺の種類一つとっても地域やお店ごとに異なるものでした。一皿の中に料理人のこだわりと地元愛がぎゅっと詰まっています。感動しました。リベラテラスでも、地元愛を込め、食材の持ち味を最大限に生かした料理を提供いたします。

ベーカリーを支える人びと



広島JPビルディング2階に位置するベーカリー「THE STAND BAKERS」には毎朝7時より、ドイツパンの定番・プレッツェルをはじめ、抹茶メロンパンや抹茶クロワッサンといった期間限定商品も含め約50種類が並びます。ドリンクが付いたモーニング／ランチセットなども用意し、さまざまな方の好みに合ったメニューを展開中。熱意あるスタッフが店舗運営を支えています。

神戸市内で5年、大阪市内で3年、ベーカリーの製造を中心に腕を磨き帰りました。幼いころよりお菓子作りが好きでしたが、製菓を学び就職した際、パン作りの面白さに気がつき今日まで来ました。焼き上がりがうまいくと「よっしゃー」と思います。神戸はパン・洋菓子の人気店や実力店が多く、その中でも「パネ・ホ・マレッタ」へはよく通いました。旅先ではクロワッサン、カレーパン、クリームパンをよく食べ比べします。店舗ごとに味の差が顕著なメニューだと考えるからです。3月に入社して以降、スタンダードベイカリーズのお客さまから「パンリテラシー」の高い人が多い印象を受けます。日常遣いできるお店づくりを目指して頑張ります。(製造スタッフ 森未由希)

{製造スタッフ 山邊 一歩さんの主なスケジュール}

- 4時半** 出社
機材立ち上げ、前日に準備した生地を①発酵(1時間)と②分割分(寝かせる)に仕分け。③食パン生地のみキシング、その他準備。
- 5時半** 成形して発酵した①を焼く。
- 6時** オープンを他のスタッフに引き継ぎ、②を成形する。一次発酵した③の食パン生地を分割して二次発酵、プレッツェルの準備。翌日のパンと当日の追加分を準備する。
- 6時半** 当日のパンを並べ始める
- 7時** 二次発酵を終えた③を成形、一時間後に焼く。



2023年8月1日入社。のグランゲートオリジナルメンバーです。現在はリベラテラスのキッチンなどにも入っています。ベーカリーやレストランの商品やメニューを看板に描き、記念日プレートの作成にも携わります。海外のお客さまがイラストを見て入店してくれたこともあり、ベーカリー人気ランキングの絵を参考に購入してくれる事例もありました。写真のポスターより、絵の方が惹かれるのでしょうか。今後も、お客さまが感動する店づくりを心掛けたいです。

(販売スタッフ 土井愛)



広報室SNSも更新してます！



＊新人YouTuberです

■公式YouTubeチャンネルに新コンテンツ登場

開設から約3年、しばらく動きがなかったテラスホールディングスの公式YouTubeチャンネルに、新たな動画コンテンツ「TERRACE TIMES+」が加わりました。

このシリーズでは、一カ月間の社内ニュースを1分程度の動画に編集し、ニュース風にお届け。撮影から原稿作成、ナレーション、テロップ、編集、最終仕上げまで、すべて広報室が中心となって制作しています。

視聴者からは「テレビのニュースみたいー」「某○○のニュース番組に似ている？」といった声も寄せられています。今後も各事業部のトピックをどんどん発信していく予定です。新人YouTuberとして、広報室の挑戦は続きます。



社報と連動して動画も公開中！ぜひご覧ください！



＊自分にご褒美のランチメニュー

■美容と健康をテーマに女子大生が考案

安田女子大学家政学部管理栄養学科の2年生11名が、グランゲート広島内レストラン「リベラテラス」で提供するランチメニューの企画・開発に参加しました。考案したのは「シェアランチコースのオーダー」と「明太子カルボナーラ」の2品です。



学生と考案したメニューは好評でした



＊ザ・スタンダードベイカースで朝活しませんか？

■ビプリオバトルから学ぶ活字の魅力

3月21日、朝7時半からスタートした朝活には、広島JPビルディングの入居者をはじめ、近隣に住む方など約20人が参加しました。今回は読書をテーマに、昨年の「全国大学ビプリオバトル2024」で準グランプリを受賞した豊崎花さん（観音大学を今春卒業）と、「広島本大賞」や「ひろしまブックフェス」の実行委員長も務める、ジュンク堂書店広島駅前店の三浦明子店長（当時）をゲストに迎え、約1時間にわたって開催。対談では「まず店内をくまなく回るのがコツ」といった書店の楽しみ方や、本との出会い方など幅広い話題が展開されました。参加者からは「朝から充実した時間だった」「次回も参加したい」といった声があり、今後多様なテーマで朝活を続けていく予定です。



朝活初開催！活字の魅力を語らう



【以上報告 藤森 憲也】

＊ゴルフコンペ開催

■第27回明友会に65人参加

3月15日、山口県・和木ゴルフ倶楽部で「第27回明友会ゴルフコンペ」を

開催しました。同コンペは、毎年3月・9月にテラスホールディングスが主催するゴルフコンペです。今回の参加者は、取引先企業と社員を含めた65人。多い時には、約100人が参加します。当日は、受付シーンから各組のティーショットまで、広報室が密着して撮影しました。後日、さまざまな角度から撮った動画を組むことに編集し、参加者にプレゼント。「客観的に自分のスイングを見たことがないので、本当に参考になりました」と好意的な感想が多く届きました。



皆と一緒に「明～友～会！」



夕方からは、グランゲート広島で懇親会があり、ビュッフェスタイルで食事を楽しみながらコンペの成績発表をしました。賞品の数は約30種類あり、くじびきで上位入賞者だけではなく、参加者全員が楽しめるような工夫をしました。今回は、9月20日の開催予定です。参加者の皆さんと親睦を深められるよう、準備を進めていきたいと思えます。

＊吠えろ！

「企業・団体別大カラオケ大会」

5月26日、広島駅南口地下広場で「企業・団体別ご本人になりきって大カラオケ大会」が開催されました。同イベント

は、松原町内会と広島駅周辺地区まちづくり協議会が主催しています。松原町内会の「のど自慢」たちが集まり「まち」や「ステージ」を盛り上げることを目的として企画されました。



大会当日の会場

出場者は、企業6社と町内会有志2人の計8組です。テラスホールディングスからは藤森広報室長が出演。生歌とミニハーモニカを使ったパフォーマンスに会場は盛り上がりました。



5/14 中国新聞朝刊掲載



手製の応援グッズ

中国新聞に取材いただきました。



【以上報告 朝田 真由】

事業部コラム

{ 環境リスクマネジメント事業部 }



宮尾 優唯

2025年6月から熱中症対策が義務化されることを受け、当事業部では「熱中症対策ウォッチ」を導入しました。手首に装着し、作業員の深部体温の上昇を感知してアラートを発信することで、熱中症を未然に防ぐことができる時計です。

さらに、塩飴や経口補水液、緊急キットなどの備品も現場に配備し体制を整えています。年々暑さが厳しさを増す中で、現場に限らず事務所内でもこまめな水分補給を心がけ、部署一丸となって熱中症対策を強化していきます。

また、鹿島建設主催の6月の安全衛生大会において、作業員2人が表彰されました。某銀行解体工事で職長を務めた箱崎勇司さんが2024年度支店長表彰とE賞（優秀技術・技能者に贈られる賞）を、某プール解体工事で職長を務めた沖元修治さんがE賞を受賞しました。今後も、作業員の安全と健康を守りながら、高い品質を両立する現場づくりに努めてまいります。



{ 東京オフィス }



栗栖 秀樹

東京における解体・リノベーション事業は、下半期に入り多くのお引き合いをいただいております。現在、見積もり作成から着工に向けた準備まで精力的に対応中です。

解体工事については、現在着工中の「NTT東日本・亀有事業所」のほか、「東芝府中事業所」内の工場解体や「品川学芸高校」の内装解体工事など、複数の案件が控えています。

リノベーション工事では「ANAインターコンチネンタルホテル東京」様より、半年間で50件を超えるお見積もりのご依頼をいただいております。6月中も4件程度の工事を予定しています。

開設から5年を迎える東京オフィスでは、案件数や工種の幅も着実に拡大しており、今後さらなる成長が見込まれます。そのため、早期の戦力強化が急務と考えます。将来的には6~8人体制の事業所を目指しているため「東京で挑戦したい」という意欲ある若手の皆様を、心より歓迎します！

{ 住空間創造事業部 }



長石 朋樹

私が住空間創造事業部に配属されて一年が経ちました。所属するリノベーショングループでは、主に現場調査、積算、見積、現場管理を行います。また、無印良品の家の新築工事で現場監督も担当しています。先輩方の指導を受けながら日々の仕事にまい進し、現場の責任者に必要な1級建築施工管理技士の取得を目指しています。

直近では、広島PARCOや新広島駅ビル内で、施工図の情報を現場に記す墨出しの手伝い、搬入、搬出作業などの現場監督の補助を行いました。今後は、店舗の新装工事にも積極的に関わっていろいろなことを吸収し、お客様に「頼んでよかった」と思ってもらえる現場を目指します。



{ 経営企画部 }



的 尚也

●**人事総務**：毎月、給与から控除している住民税は、6月度の給料より金額が変わります。詳細は市町村から届いた通知書で確認してください。また、皆さんはふるさと納税を通じた節税対策をしていますか？ふるさと納税で地方を応援し、寄付額のお礼としていただく地域の特産品（返礼品）を堪能しつつ、節税もできる制度です。この10月から大きくルールが変わりますので、仲介サイトを利用している方は9月までに完了された方が良いでしょう。ちなみに私が好きな返礼品は北海道恵庭市のピスタチオジェラートです。

●**経理**：6月より原価管理システムを入れ替えます。建設業において最も重要なシステムです。このシステムは経理部だけでなく、営業から工事担当者まで幅広い職種の方に関係します。使う方にとって不便がないようにマスタといった整備などを行い、業務効率化が図れるよう導入作業を進めていきます。

{ GRAND GATE HIROSHIMA }



清本 浩徳 川本 崇文

スタンダードバイカーズでは4月より新商品を販売開始しました。その中でも抹茶メロンパンは売れ筋1位です。パンオショコラも不動の人気を誇ります。今後も毎月新商品を販売しますのでご期待ください。5月11日は、広島ゲートパークで開催された広島パンフェスタに初出店しました。他店の追従を許さない行列ができ、用意したパンはすぐに完売になるなど大盛況でした。これからもお客様に喜んでいただける店づくりをスタッフ一同進めていきます。

グランゲート広島では、5月から西原一樹シェフが就任しました。クラシックで伝統的なイタリアンをテーマに、ワインなどに合う料理を提供しています。6月には研修期間を設け、皆さまのサードプレイスとなるレストランを目指してリスタートします。新たなリベラテラスでは是非、美味しい料理とお酒をお楽しみください。

{ 事業推進室 }



小川 宏明

事業推進室は昨年12月に設立され、各部署の支援や業務環境の改善、新たな取り組みへの挑戦など、さまざまな活動を行っています。

4月から6月にかけては、環境リスクマネジメント事業部のサポートとして、解体工事に伴う土壌汚染区画の管理業務に従事しました。現場には日々足を運び、汚染土壌が非汚染区域へ飛散しないように管理を徹底するとともに、施工写真の撮影や地下水の管理も担当しました。通常の解体工事とは異なる点も多く、現場スタッフには大変な面もあったかと思いますが、前向きに施工に取り組んでくれたことに感謝しています。

また、4月には竹中工務店様と長年にわたり協力関係を築いてきた専門工事会社の集まり「竹和会」にて、若手社員向け研修の講師を務めさせていただきました。例年は広島竹和会のみのご依頼でしたが、今年は大阪竹和会からもお声がけいただき、大変光栄でした。工事だけでなく、「つながり」を大切に、関係各社との連携を広げていくことで、テラスHDグループ全体の力となれるよう、今後も取り組みを進めていきます。



Company Newsletter Terrace HLDGS

2025.6

TERRACE TIMES



叡智を結集

ひろしま国際ホテル 解体へ挑戦

無事故でラストスパートを駆ける

広報室は5月末時点で、ひろしま国際ホテルの現場に延べ16日お邪魔しています。後世に残す映像記録などが目的ですが、毎回危険と隣り合わせの現場を案内してくれるのが「職長」と呼ばれる責任者です。解体工事も佳境を迎える中、宮脇広司職長がインタビューに応じてくれました。

5月22日現在の進捗状況は75%です。本日は3階の「躯体解体」を終え1階まで下りてくる工程を進めます。ホテルの建物自体は6月末に無くなり、恐らく9月末には全体も含めて終了します。予定していた工期より早く進んでいるのは、国際ホテルの設計上、手作業での解体が多く見込まれることを受け、工期を長めに設定していたからです。加えて、作業員皆さんの腕が良かったことも功を奏しました。

昨年末、前任者より職長の座を任され、プレッシャーは感じました。大ベテランの作業員が働きやすい環境をつくり、段取りを組むことが職長の役割だと考えます。現場でのコミュニケーションについては、今やってほしいことは何か、を明確に伝えることが大事ですね。それぞれにやり方があるので、細かく口は出しません。とにかく、皆の作業がストップすることのないよう、先回りして考えることに努めます。

桑原組は、広島の人なら誰もが知っているような建物解体を請け負っています。それも何十年も前からです。「この建物を壊した」と言えば伝わるのが桑原組の持つ歴史の重みでしょうね。ラストスパートに向け、まずは事故なく終わること、工期内に終わることを目標に掲げます。協力会社の方も含めて経験を積んでもらい、この現場に入る前よりもさらにレベルアップして終わってもらいたいです。



環境リスク
マネジメント事業部
工事部 現場担当
宮脇 広司